直感的操作性、ＤＢも充実

ネグジット総研「調剤くんＶ７」

ネグジット総研の「調剤くんＶ７」は、長年レセコン開発に携わり薬局業務を熟知したメーカーだからこそできる「かかりつけ薬剤師システム」をコンセプトに、薬局業務の効率化や患者服薬指導の向上を目指し、業務に即した画面設計や操作性を実現している。

「Ｖ７」では、かかりつけ薬剤師の業務を支援する機能として、患者固有の情報や服薬指導内容など必要な情報を一元的に管理し、個々の患者に応じた服薬指導を支援する管理機能が充実している。これまでの医薬品相互作用データベースに加えて、病名・代表病名（適応、禁忌病名、副作用など）や規格違い・類似名称、警告・禁忌情報、アレルギー、改訂指示・医薬品安全性情報（ＤＳＵ）、小児患者の体表面積によるチェック機能などがあり、ヒヤリ・ハットの防止や服薬指導に役立つ各種データを標準搭載している。

窓口業務機能では、処方箋に印字されているバーコードをスキャンするだけで、患者頭書情報、処方箋情報が自動入力される「２次元バーコードくん」や処方箋画像や患者アンケート、保険証などの画像を調剤録画像に印字されたコードと該当患者を紐づけし自動保存する「らくらく読取くん」など作業の効率化につながる。そのため、入力・確認作業の大幅な時間短縮が図れ、患者対応や患者満足度向上にも貢献する。

また、オプションとして、日本語・英語版薬剤情報文書データや中国語版薬剤情報書（簡体字・繁体字）データを搭載。訪日外国人や在日外国人、渡航する日本人向けなどのために日本語訳も表示することができる。他にもＯＴＣ医薬品の添付文書および医療用医薬品との相互作用、投与量・用法、小児・高齢者や妊婦・授乳婦に対する投与制限などの各種データベースがある。

「調剤くん」に連動した電子薬歴システム「薬歴くん」には、これらのデータに加え、服薬指導や問診に必要なＰＯＳ（薬剤別、疾患別）データベースを標準搭載しており、投薬や薬歴記載の具体的な内容候補が充実している。入力補助オプションとして、マイクに向かって話すだけで薬歴を簡単に作成できる「ENIFvoiceSP＋Ａ」を導入すれば、圧倒的な速さで充実した薬歴記載が可能となる。

ネットワークを利用した機能も拡充している。「調剤くんＶ７」で入力された処方情報はクラウド上のデータベースに蓄積され、ドミナント展開のチェーン薬局では、複数店舗に来局する患者の情報や薬歴情報を一元的に検索できる。薬歴情報はセキュリティを確保した通信上でタブレットやスマートフォンでも参照でき、患者からの相談に24時間応じる体制の構築に役立つ。

９月１日から薬剤師による服用期間中のフォローアップが義務づけられたことに対応するため、ビデオチャットを用いた服薬指導内容を薬歴に簡単に記録できる「服用期間中フォロー支援システム」をオプションラインナップに追加した。来年から始まるオンライン資格確認にも対応する予定で、これからも時代のニーズに合ったシステムを積極的に提供していく。

患者満足と共に薬局変革実現

カケハシ「Musubi」

カケハシが提供する調剤薬局向けクラウド電子薬歴「Musubi（ムスビ）」は、服薬指導をしながら薬歴の下書きが自動で作成されるため、薬歴業務の負担を軽減しながら、個々の患者に合わせた指導文や健康アドバイスのアシストによる服薬指導が行えることから、「患者さんにより良い価値を届けたい」と願う多くの薬局・薬剤師から支持されている。今夏からは、薬局の働き方改革と患者満足の両立による薬局体験の向上を支援するシステムとして刷新され、注目が集まっている。

薬剤師は患者と一緒に「Musubi」のタッチ機能付き端末画面を見ながら服薬指導を行う。指導した内容が自動で薬歴のドラフトとして残る。「Musubi」を利用することで、薬剤師の業務負担となっている薬歴の記入時間を大幅に軽減することが可能になる。同時に「Musubi」を通じて、患者の健康状態や生活習慣に合わせた指導文や健康アドバイスが提示でき、薬剤師の負担を軽減しながら、患者が理解しやすい服薬指導を提供できる。

ここ数年、薬局においては対物業務から対人業務へのシフトが強く求められ、さらに今秋に施行された改正薬機法では、薬剤師による服薬期間中のフォローの義務化が開始されるなど、薬局・薬剤師を取り巻く環境は大きく変化しつつある。

さらに、新型コロナウイルス感染症の影響で新しい生活様式が普及しつつある現在、薬剤師は「患者にとって、より身近な専門家」であると共に、薬局が「患者に付加価値を提供する場所」へと変化することが欠かせない時代となった。

そこで、薬局の働き方改革と患者満足を同時に支援することを目的に、Ｍｕｓｕｂｉと連携する二つのサービス「Ｐｏｃｋｅｔ Musubi」「Musubi Insight」を７月から開始した。

このうち「Pocket Musubi」は患者向けのお薬連絡帳アプリで、薬局から提供されるＱＲコードを介して服用薬データが入力されており、データに基づいた服薬期間中のフォローに必要な質問が自動で患者のアプリに送信される。薬剤師は「Pocket Musubi」の管理画面を通じて、患者側のデータを確認しながら服薬中の状況を把握し、適切なフォローが行える。患者との過剰なやりとりや連絡不足を防ぎ、必要な患者へ最小限の業務負荷だけで患者満足につながるコミュニケーションが図れる。

一方の「Musubi Insight」は、Musubiのデータを使用して薬局経営上の重要な指標を可視化し、根拠に基づく薬局運営を実現する薬局業務の見える化クラウドサービス。薬歴完了率のような薬剤師の業務状況を表すデータから、売上などの店舗経営データ、処方箋枚数や再来率・新患率など患者との関係性を表すデータまで、薬局業務を可視化することで解決すべき課題の発見・把握を効率化し、適正な薬局運営の実現をサポートする。

薬事日報
新聞＋電子版

読みなれた新聞やパソコンだけじゃなく
スマートフォンだと
こんなに便利！

・外出中に…
・通勤中に…
・出張中に…

スマートフォンで
いつでもどこでも
薬事日報

※画像はイメージです

薬事日報
新聞＋電子版

新聞１年契約なら
+5,000円/年
（税別）

＜詳細やお申し込みは＞
https://www.yakuji.co.jp/

スマートフォンは
コチラから＞＞

第53回 日本薬剤師会学術大会（順不同）

久光製薬株式会社
代表取締役社長 中冨一榮
九州本社 〒841-0017 佐賀県鳥栖市田代大官町408番地
東京本社 〒100-6330 東京都千代田区丸の内二丁目4番1号

帝國製薬株式会社
代表取締役社長 藤岡実佐子
〒769-2695 香川県東かがわ市三本松五六七番地
電話 〇八七九（一一五）一一二一

東亜薬品工業株式会社
代表取締役社長 増田智英
〒151-0073 東京都渋谷区笹塚二―一―一一
電話 〇三（三三七五）〇五一一番

日新製薬株式会社
代表取締役 大石俊樹
〒994-0069 山形県天童市清池東二―三―一
電話 〇二三（六五五）二一三一

株式会社富士薬品
代表取締役社長 高柳昌幸
〒330-9508 さいたま市大宮区桜木町四―三八三
電話 〇四八（六四四）三二四〇

日東メディック株式会社
代表取締役社長 中井龍
〒939-2366 富山県富山市八尾町保内一―一四―一
電話 〇七六（四五五）三四五一

当ファイルの著作権は㈱薬事日報社またはコンテンツ提供者に帰属します。当ファイル（印刷物含む）の利用は私的利用の範囲内に限られ、それ以外の無断複製・無断転載・無断引用はご遠慮ください。当ファイル（印刷物含む）を社内資料、営業資料などでご利用される場合はご相談ください。
株式会社薬事日報社　TEL:03-3862-2141　shinbun@yakuji.co.jp　http://www.yakuji.co.jp/